

## 校長の話

校長 上村 哲也

9月とは思えない暑い日が続いています。この暑さはさすがに応えます。そして、新型コロナウイルス感染にも注意が必要です。規則正しい生活と適度な運動、早寝・早起き・朝ご飯を心がけて、乗り切っていきましょう。

さて、9月1日は「防災の日」でした。この写真、何だか分かりますか？ 地震で家を失った人たちが避難している様子です。

次に、これ（朝日小学生新聞9月1日号）を見てください。見出しには「100年前、10万人が犠牲に―関東大震災―」とあります。今から100年前の9月1日、午前11時58分に、相模湾を震源とする地震が、関東地方を中心に激しい揺れをもたらし、死者・行方不明者は10万5千人に及び、200万人を超える人たちが家を失いました。当時の東京都内の小学生だけでも5000人が亡くなったと言われています。次の写真は東京の街の様子です。



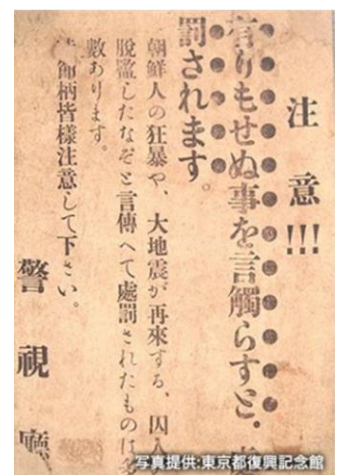
引用：NHKホームページから  
[https://www3.nhk.or.jp/news/special/news\\_seminar/jiji/jiji144/](https://www3.nhk.or.jp/news/special/news_seminar/jiji/jiji144/)

この100年の間に、日本はいくつかの巨大地震に見舞われました。関東大震災から72年後には阪神・淡路大震災（死者・行方不明者約5500人）が、その16年後には東日本大震災（死者・行方不明者約18000人）が起きています。この他にも大きな地震は度々起こっています。そして、近いうちに幾つもの大きな地震があると予想されています。中でも、関東から九州の広い範囲で強い揺れと高い津波が発生するとされる南海トラフ地震と、首都直下地震は、今後30年以内に発生する確率が70%と予想されています。この写真を見てください。首都直下地震が起きたときの東京の様子を描いたCG画像です。いつか、必ずやってくる地震にしっかりと備えておくことが必要ですね。

では、ここからは「地震への備え」について考えてみようと思います。

「備え」と言うと、まず、思い浮かぶのは、必要なものを揃えておくとか、避難訓練でやっているよう自分の身を守るなどということでしょうか。でも、今日は、ちょっと別の「備え」について話します。それは、「うわさやデマ、うその情報」について備えておくということです。新聞にはこう書かれています。・・・

「関東大震災では、『朝鮮から来た人が井戸に毒薬を投げ入れた』などといった、うその情報が広がり、数千人の朝鮮人が殺された



引用：NHKホームページから  
[https://www3.nhk.or.jp/news/special/news\\_seminar/jiji/jiji144/](https://www3.nhk.or.jp/news/special/news_seminar/jiji/jiji144/)

とされています。・・・信じ難いことですが、100 年前にこの日本で起こった出来事です。こんなことは今なら起きるはずはないと言えるでしょうか？

実は、今でも、根拠のない情報やニセの画像が広がることがあります。・・・

例えば、東日本大震災でも、ネット上で、避難所を回って診療しているお医者様に、「避難所で犯罪が起きているので、危ないから行かない方がいい」という、嘘の情報が届きました。この情報を信じて診療に行かなかったら、もっと多くの人命が失われていたかもしれません。次の写真は、千葉県市原市の製油所で爆発が起きたときの写真ですが、この時には「有害物質の雨が降る」という投稿が SNS 上で瞬く間に広まりました。

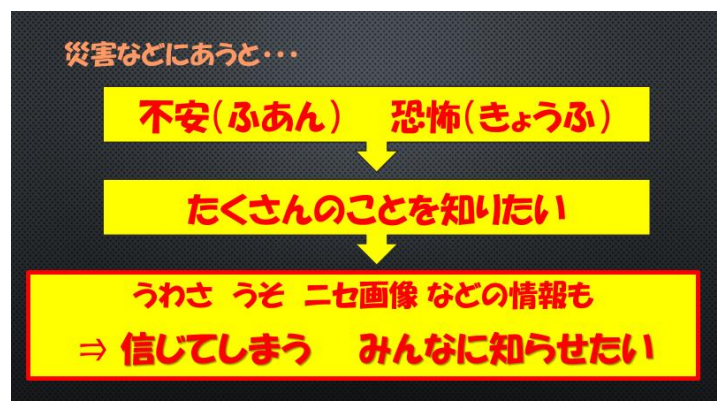
次の写真を見てください。これは熊本地震（2016 年）が起きた時にネット上に流れた写真です。近くの動物園からライオンが放たれたとの情報を流しています。もちろん嘘で、写真は海外で撮影されたものを使っています。冗談で済まされない許しがたい行為です。この偽情報をつくった人は警察に逮捕されました。

では、もう 1 枚の写真はどうでしょう。地震災害ではありませんが、静岡県で被害が出た 2022 年の台風 15 号の際の、静岡県内の水害の様子だとする画像が SNS で広散しました。これは信じてしまいそうですね。実はこの写真、生成 AI で作った偽画像でした。



引用：NHKホームページから  
[https://www3.nhk.or.jp/news/special/saigai/select-news/20220928\\_01.html](https://www3.nhk.or.jp/news/special/saigai/select-news/20220928_01.html)

なぜ、災害の時に、嘘の情報が回りやすいのでしょうか。大きな災害に遭うと、人は「不安」や「恐怖」を感じます。すると、たくさんの情報が欲しくなります。でも、災害時はいつも情報を出しているメディア（テレビやラジオ、新聞など）の情報も不足しがちになります。そんな時、嘘の情報が次から次へと広がっていきやすくなります。普段なら到底信じられないような、根拠のないでたらめな情報も広がってしまうのです。そして、それは必ずしも「他の人をだまそうと」思って広げてしまうのではなく、むしろ「みんなにも早く知らせたい」という善意から広げてしまうことが多いのだそうです。



また、大きな災害が起きるたび、「外国人のグループが被災地でどろぼうをしている」というような、外国人を悪者にした嘘の情報が流されています。その理由の一つには、「あの国の人たちは悪いことをしそうだ」などといった思い込み（偏見）があります。外国人の友だちがいれば「そんなことはない」と言えるでしょうが、そうでない人は悪い情報を

信じやすくなってしまう。これは残念で、とても怖いことです。

関東大震災のときはテレビやラジオ放送も始まっていないなど、正確に情報を伝える手段が十分でなかったこともあって嘘の情報が口コミで広がりました。でも、誰でも情報を発信し、広げることができる SNS が普及した今は、100 年前とは違う形で嘘の情報がもっとずっと簡単に。広い範囲に広まってしまうリスクがあります。簡単にニセ情報が作れてしまう時代であることを知っておきましょう。

では、うわさ話やうその情報に惑わされないようにするには、どうしたらよいのでしょうか。このことについては、この後、それぞれの学級で話し合ってみてください。

### うその情報にまどわされないようにするには…

例えば…次のような方法が考えられます。

- 災害の時は、ニセの情報が出回ることを知っておく。
- 「これって本当かな？」と立ち止まって考える。
- 本当かうそかわからない情報は広げない。
- 情報の出所を確かめる。  
(信頼できる複数の報道機関が報道している)

